

自 平成31年4月1日  
至 令和2年3月31日

公益財団法人 ハーモニィセンター  
平成31年度（令和元年度）  
事業報告書



公益財団法人ハーモニィセンター

# 目 次

1. 概況	・・・	2
2. ポニークラブ、子ども動物広場、牧場等の運営及び受託管理	・・・	3
2－1 ポニーキャンプ		
2－2 日帰り企画		
2－3 蓼科ポニー牧場		
2－4 相馬ポニー牧場		
2－5 小貝川ポニー牧場		
2－6 目黒区碑文谷公園こども動物広場		
2－7 葛飾区水元中央公園子ども動物広場		
2－8 相模原市麻溝公園ふれあい動物広場		
2－9 万騎が原ちびっこ動物園		
2－10 板橋区こども動物園本園、高島平分園		
2－11 上千葉砂原公園ふれあい動物広場		
2－12 海老名ふれあい動物施設		
3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及	・・・	9
3－1 「馬のいる領域」研究集会		
3－2 馬から学ぶオリンピック・パラリンピック事業		
4. 川べり環境の整備及び活用の推進	・・・	9
4－1 カヤック教室・水辺でのプログラム		
4－2 河川騎馬パトロール		
5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進	・・・	10
5－1 モンゴル大草原乗馬交流		
5－2 日独青少年相互交流計画 2019		
6. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信	・・・	11
6－1 機関紙の発行		
6－2 キャンプ募集チラシの発行		
6－3 WEB広報		
7. その他	・・・	12
7－1 規程変更		
7－2 馬の管理		
7－3 人材育成		
7－4 第三者委員会		
7－5 会議等		

# 1. 概況

---

まず、大きなトピックスを中心にこの1年を振り返ると、

- ① 7月 定時評議員会における役員改選で連携協定を結んでいる認定NPO法人ハーモニカレッジ理事長、大堀氏を理事に迎えると同時に、事業現場の状況を運営に反映させるべく30代、40代の職員各1名を新たに理事として選任し、次世代へのバトンタッチが実質的に始まったことを示す体制となった。  
また、同評議員会で代表理事より平成28年度に発生した使途不明金問題にけじめをつけるとの宣言があり、一評議員から要請を受け、当会としては初となる第三者委員会設置に至った。年が変わった1月に、報告書が提出され、内閣府公益認定当委員会からはこの報告を受けた法人としてのその後の取り組みについての報告を求められた。
- ② 8月 葛飾区立上千葉砂原公園の令和元年9月から3年間委託に関し、入札が予定されていたが、当会以外に応募がなかったため、9月から3月、令和2年からの3年間の運営を当会が受託することが決定した。
- ③ 9～10月 公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会からの助成金を得て、かつて新潟県長岡市で実施していたグランドポニースクール（2週間程度、学校等の施設を巡回しての移動乗馬教室）を前年度より新たなつながり作りを進めていた新潟県南魚沼市、千葉県勝浦市で実施した。
- ④ 10月 板橋区こども動物園本園のリニューアルオープンに伴い、令和2年から5年間の分園を含む指定管理者の公募があり、当会が候補者に選定された。
- ⑤ 12月 第三者委員会設置
- ⑥ 3月 新型コロナウイルス感染拡大を受け、職員の緊急配置転換と在宅勤務導入を行い、春休み実施予定の事業（国内キャンプ、ドイツ乗馬交流）を中止とし、動物広場事業についても施設設置者である自治体により、人が関わるプログラムの中止や閉園が決定されて新年度に至っている。
- ⑦ 事業計画書では、河内町廃校を運用開始するとして町との協議も重ねたが、活用候補者決定から1年以上が過ぎても具体化に至らず、9月開催理事会で本事業の一旦中止を決定した。

事業は冬休みキャンプまでは順調に推移していたが、2月後半からは新型コロナウイルスの感染拡大に対する政府、各自治体の拡大防止施策に対応する立場をとったため、最終的には参加者数、利用者数、収益共に前年度を下回る結果となった。

平成31年度事業計画書の「はしがき」で

「今やどこで何が起きても不思議ではないと思える自然災害の規模・頻度を考えると、誰もが今の生活が半年先も続くと想像するのが難しくなっているのではないだろうか。」

と書いたが、残念なことに、年度内に「今の生活が続かない」状況が現実のものとなった。今、やるべきことは「どうしたら今の生活が続くか」を考える事ではなく、ハーモニカセンターの約60年がそうであったように、刻々と変わる社会情勢を捉え、真に求められていることを見極め、転んでもただでは起きず、新たな脱皮を図るのだという強い思いを持ち、その思いを推し進めるためのパワーとアイデアの再生産に全精力を注ぐことであると役職員一同再認識し、5年先、10年先を見据えて進んでゆきたい。

## 2. ポニークラブ、子ども動物広場、牧場等の運営及び受託管理

### 2-1 ポニーキャンプ

- 前年との差異とその要因

夏、冬の長期キャンプは夏に49人、冬に14人増加。新型コロナウイルス感染症の影響で春休み蓼科ポニーキャンプ4本とスキーキャンプ1本を中止し、長期キャンプ全体としては、参加者は147人減少した。昨年開始した勝浦キャンプを継続し1回実施。

短期キャンプは、勝浦キャンプをスケジュールの関係で中止した一方で、参加数の伸びを望めない7月、11月の蓼科ポニーキャンプをファミリーキャンプに変更し、9月には小貝川キャンプを追加した。新型コロナウイルスの影響で3月ファミリーキャンプも中止したため、短期キャンプ全体のキャンプ数は1回減ったが、参加者は43人増加した。



- 長期キャンプ…学校の長期休業中（夏、冬、春）に実施したもの。（詳細はデータ集参照）

	キャンプ名	実施回数	参加者
①	蓼科ポニー	12	547
②	小貝川ポニー	6	81
③	八ヶ岳登山	1	18
④	勝浦	1	16
⑤	河口湖スケート	1	20
⑥	六日町スキー	1	33
	計	22	715
	30年度	27	862
	差異	△5	△147

- 短期キャンプ・・・週末、連休に実施したもの。

	キャンプ名	実施回数	参加者
①	蓼科ポニー	4	130
②	奥秩父野外	1	15
③	河口湖スケート	1	15
④	ファミリーキャンプ（蓼科）	8	174
⑤	小貝川	2	38
⑥	六日町スキー	1	18
	計	17	390
	30年度	18	347
	差異	△1	43

- 受託キャンプ・・・外部からの依頼で実施したキャンプ。

	キャンプ名	実施回数	参加者
①	いちごっこキャンプ	1	19
	計	1	19
	30年度	1	19
	差異	0	0

## 2-2 日帰り企画

昨年度開始した「HAC（ハーモニアクティブチャレンジ）」は（公社）全国乗馬倶楽部振興協会からの助成金を得て9月、10月に南魚沼市と勝浦市で長期の移動乗馬教室を実施した関係で、実施回数を減らした。その中で流通経済大学他2団体とコラボレーションしたHACを小貝川で実施、他にも新たなメニューで開催し、子供から大人まで好評だった。また、去年は代々木で実施したハモフェスを小貝川で実施し、キャンプ参加者のみならずポニークラブの参加者やその保護者も参加し、目標50人を上回る70人が参加した。



### ○ 事業結果

	企画名	実施回数	参加者
①	HAC	8	96
②	ハモフェス	1	70
	計	9	166
	30年度	12	188
	差異	△3	△22

\*「ハモフェス」は11月に開催したハーモニフェスティバル（旧「親子祭り」）

## 2-3 蓼科ポニー牧場

### 1. 宿泊団体の牧場利用

自主事業のキャンプ29回（52泊）、OB会4回、広場キャンプ6回（14泊）、ライダーズカップ合宿3回（4泊）。他団体利用2回（4泊）。関東の事業所で体験できない練習を求めて、蓼科の利用が意識されてきた。同時に学生の研修会での利用も目立つ。

### 2. 日帰り団体の牧場利用

前年に引き続き、育児支援プログラムを継続（77名利用）。新型コロナウイルス対策による学校閉鎖を受けて、牧場での受け入れを開始。200名を超える利用があった。

### 3. 蓼科ジュニアポニークラブ（TJPC）

小1～中3が対象。高校生OBのボランティア参加可。月2回実施。年間を通じた活動の大半に父兄が関わる。地元中心ではあるが、東京からの参加者もあり。

月謝制 ¥5,500/1名。



計	のべ参加者数	行 事
22回	380名	前後期保護者会（年間活動・役員選任）、合宿 ライダーズカップ、八ヶ岳ホースショー

### 4. 移動乗馬教室

計22日 112頭（延べ）

### 5. 牧場レッスン・引き馬

牧場レッスンは一昨年、昨年に続きプラス200と増加傾向にある。

### 6. その他

(ア) デイキャンプ（参加者数30人）

三井の森別荘在住者を中心として、夏休みポニーキャンプに1日体験参加するもの。

(イ) ポニーステイ

長野県伊那市立伊奈小学校にガリバーを無償貸与した。

#### (ウ) カウンセラー研修

宿泊研修3回とハーモニカレッジカウンセラー合同研修1回を実施した。

#### 【まとめ】

令和元年度は前年、前々年に続きレッスン・引馬の数を増加させる努力が実った。キャンプのない週末にカウンセラーOB会、個人利用を促進した。ポニークラブを中心として、地域とのつながりを強める年となった。

### 2-4 相馬ポニー牧場

施設の利活用という点では、南相馬市地域復興プログラムにおける除染物質の仮置き場として前年度に引き続き放牧場を貸与した。

東電側が設定する対象期間の支払いが終了したことから、原子力損害賠償紛争解決センターに対して和解仲介申立てを行った。

### 2-5 小貝川ポニー牧場

#### 1. 宿泊団体の牧場利用

自主事業が中心となっているものの、生き生きクラブには宿泊ができない為、手賀の丘少年自然の家（千葉県柏市）・つつみ会館（茨城県稲敷郡）・来楽庵（茨城県桜川市）などに宿泊しながらのプログラムを継続した。新たな宿泊施設の開拓に努めた。

#### 2. 日帰りの牧場利用

従来通り障害を持つ方の団体が牧場利用の中心となった。新規としては雑誌 BE-PAL によるユニバーサルプログラムで乗馬と E ポートプログラムを行った。また、HAC や新たな利用者の開拓に努めた。前年度に続いて流通経済大学（竜ヶ崎市）との連携で、「牧場作業と馬と学生」をキーワードに地域の活動の場として開放。牧場アートプログラムとして流通経済大学の学生が主催し、地域在住のアーティストを招聘し、ハーモニセンター会員中心に呼びかけて馬房の壁面に絵を描いた。



DAYキャンプへの協力や日常の空いた時間を利用して力を貸してくれるなど、学生の活動に小貝川ポニー牧場が根付いたことを実感した一年となった。また、カウンセラーが主体となって行う、ハーモニフェスティバルを小貝川で実施し大変な賑わいとなった。

#### 3. ポニー教室

小学1年生から中学3年生が対象。高校生の地元カウンセラー（流通経済大学学生）などの力を借りて日祝日に実施している。低学年の入会が伸びた一年だった。新型コロナウイルスの影響で学校が休みになった事を受け、牧場を開放した。ポニー教室の参加も併せて3月だけで延べ300名を超える子供達が牧場にやってきた。

#### 4. 移動乗馬教室

板橋への定期的出張乗馬や碑文谷フェスティバル、オリンピックセンターで行うプログラムなど、団体内の馬派遣を積極的に行った。

#### 5. 乗馬レッスン・引き馬

乗馬レッスンはこれまで同様、半数近くがポニースクールかつしかで年齢制限を超えた障害を持った方達のレッスンとなっている。今年も異常気象の影響を大きく受けた年だった。台風19号の際は危険水域を遥かに超える増水量となり、牧場脇の小貝川堤防の越水が危ぶまれた。また、夏季の気温の上昇によって、利用者だけでなく職員や動物にとっても安全を確保することの舵取りに苦慮した。週末や祝日にレッスンの希望が集中し、断らざるを得ないという従来

の問題解決には至らなかった。

#### 6. ポニーの老齢化

功労馬を福島県にある養老牧場（グループホーム天栄夢の丘ポニー牧場・一般社団法人協働福祉事業団）に移動すると同時に新馬を購入した。蓼科や各広場との連携を取りながら入れ替えを図っている。

### 2-6 日黒区碑文谷公園こども動物広場（指定管理者 5 年指定の 1 年目）

本年度は、指定管理者 5 年指定の 1 年目として、気持ちを新たに、基本方針「地域住民との協働や公園活性化等」や基本事業（動物とのふれあい、引き馬、ポニー教室（個人・団体）、職場体験受入（通年）、ポニーまつり（5 月）等）を丁寧に進めた。特に地域住民との協働を意識し、定例会及び懇談会への参加、隣接施設イベントへの参加（ポニーとのふれあい・にんじんあげ）の他、ポニーまつりでは新たに子供の居場所づくりを考える団体（区内）と連携を組んだ。また、昨年度の課題に動物クラブ参加者数の伸び悩みがあったが、子供達への寄り添い方やプログラム組み立て等を改めて見直した結果、新型コロナウイルスによる休園期間を含めても、その参加者数は増加した。こうした基本事業が「新しい公園の運営管理の一例」と着目され、外部団体が主催する公園管理運営フォーラムで事例発表を行う機会を得たことも特筆すべきものと受け止めている。



今後も参加者にとってより良い居場所となるよう、職員一同心がける。また、要望が高いポニーキャンプ等、日頃ポニー教室や動物クラブで培った力を楽しみながら発揮できる、子供達の更なる心身の健全育成に繋がる時間を大切にしていきたい。

### 2-7 葛飾区立水元スポーツセンター公園子ども動物広場（ポニースクールかつしか） （受託 1 年契約）

令和元年度は、葛飾区役所教育委員会地域教育課と連携を強め、長年手付かずであった懸案事項の解消に努めた。

成果としては、事務所棟の雨樋修繕、エアコンの全機交換、厩舎への新規エアコン取付け、体操用マット・跳び箱の新規入替、馬場砂の補充等、大規模から中規模に至るまで、環境整備が推進された。

会員登録している個人利用者に対しては、従来のイベントを大切にしつつ、新規のイベント

（クリスマス部班チーム・軽乗チーム発表会）や軽乗検定の充実を盛り込むことで、子供の基礎体力の強化、向上心や挑戦する心を養うことに重きを置いた運営となった。

午前中の団体利用枠については、当施設が本来子供を利用対象とした施設であることに鑑み、成人団体の利用回数を減じることで、当該対象者の利用数を増やすよう努めた。

ただし、2月29日より新型コロナウイルス感染拡大防止施策として、休園となった。

外部団体との交流事業として、「（一財）YS市庭コミュニティー財団」の助成金を受けて山梨県のクローバー牧場との軽乗交流を行った。

馬の飼養については、年度内に2頭が死亡したため、傷病馬の対応が出来る、大型動物専門の獣医師を近隣に確保する課題が見えた。また、会員に噛みついて負傷させる事故も発生したことから、より一層安全面に配慮した運営を目指すこととする。



## 2-8 相模原市麻溝公園ふれあい動物広場（指定管理者 1年指定の1年目）

働き方改革に伴い、プログラムの見直し、新しい道具の導入、業務効率の見直し等、今までのやり方に固執せず内部改革を進めていった。その成果として、職員の精神・身体的負担の軽減に繋がった。

本年度より実施している「大人の健康作り乗馬」では、かねてから相模原市役所の方達から要望いただいている「障害児ポニー教室の卒業生の受け皿」としても成果をだしている。

また、近隣大学への指導員派遣も実施。日大へは障害児教室実習の指導と補助、麻布大学へは、保育園児を騎乗させ乗馬による効果測定に関わる学生への指導員として派遣を行った。

開園から今年で35年目を迎え、それに伴い動物の高齢化と広場樹木の巨木化も進んでいる。動物商の減少により困難ではあった動物購入先のリサーチを重ね、来年度の動物補充をスムーズに進められる準備ができた。巨木化に対しては、5年かけての高木剪定を、①「お弁当広場」②「引馬コース」③「正門」④「南門」⑤「バックヤード」の順で計画しており進めていく。本年は①「お弁当広場」の高木剪定を行った。

次年度も引き続き、幅広い年齢層に利用してもらい、満足していただける広場作りを目指していきたい。



## 2-9 万騎が原ちびっこ動物園（受託 5年契約の4年目）

本年度から、熱中症対策として夏の猛暑日はコンタクトコーナー内で気温を計測し、危険と判断した場合はふれあいを中止することとした。その際、せっかく足を運んでくださった来園者の方に楽しんでいただけるよう、モルモットのタッチングやフォトギャラリーなど、様々な代替の取り組みを行なった。同時にアイスやジュースの自動販売機を導入し、遠くの売店まで足を運ばずともよくなった。夏には大きな台風を2度経験したが、事前準備をきちんとしたため大きな被害はなかった。

2020年1月8日から2月13日まで、動物園内のハト舎解体工事を行ない、工事期間内は平日を休園とした。2月14日からは通常通り開園したが、2月26日から新型コロナウイルス対策としてコンタクトコーナー運営を中止とし、2月29日から3月31日まで休園となった。そのため、今年度の入園者数は前年度と比べて1万6千人近く減少したが、元々計画し、実施したコンタクトコーナーの時間短縮や団体利用枠・団体利用最大人数の限定といった変更による利用者の大きな落ち込みは見られなかった。

また、万騎が原ちびっこ動物園は新たに第一種動物取扱業に登録し、ちびっこ動物園にも動物取扱責任を配置した。



## 2-10 板橋区こども動物園本園、高島平分園（受託 1年契約）

本園が大規模改修のため長期休園に入ったため、従来本園に通っていた来園者が分園を利用するようになったこともあってか、分園の来園者が増加した。

今年度、長く動物園に貢献してくれた、シカの「ももか」、ひつじの「そら、りん」が亡くな

り、来園者から別れを悲しむ声が寄せられ、来園者の方々にとっては「動物園の動物」ではなく、「ももか、そら、りん」という「居場所」だったように感じられた。また、動物や職員を通じて東板橋地域、高島平地域の方々が交流する場面が多々見られた。

本園の長期休園対策として行なった東板橋地域出張動物園では、多くの方が開始前から並んでくださり、大盛況。本園の動物クラブの子供達が活躍する場にもなっており、好評を得た。毎年本園で行なっていた「親子まつり」を分園の規模に合わせた「分園ミニ親子まつり」として開催し、雨にも関わらず、前年度を大きく上回る来園者があった。カウンセラー・ボランティアが20名以上集まり、天候の変化にも臨機応変な対応をしながらイベントを盛り上げてくれる彼らの力に助けられた。また、ボランティアの半数は動物クラブのOGOBで、動物クラブを巣立った後も活躍できる場になっていた。

年間来園者数は増加したものの、動物クラブの参加数はやや減少した。改善策として、スタッフからの声かけ、動クだより等でのお知らせ、子供達が目標や挑戦したいことを見つけられる環境作りにより一層力を注ぎ、ブログの内容もお知らせだけでなく、来園者の興味をひくものを入れていく。



## 2-1-1 上千葉砂原公園ふれあい動物広場（9月から半年間の特命随契になった。）

9月の契約更新の際、入札から特命随契に変更された。それに伴い、次回契約は2020年4月から2021年3月までの1年契約となった。

新型コロナウイルスの影響により、ふれあいコーナー、引き馬を2月29日から3月31日まで中止としたため、各コーナーの利用者数、入園者総数共、前年度と比べて減少した。但し中止前の利用者数は前年を大きく上回った。

動物愛護倶楽部の利用者数も2月28日迄で前年を上回っていた。これは、今年度、この活動に特に力を入れた成果の表れと考えられる。

一方、ポニー教室は2回目の参加者が少なく前年度を下回った。事前告知に原因があると思われるため、今後、告知を充実させ参加者が伸びるよう努力していきたい。

夏場の猛暑でふれあいコーナー・引き馬が中止になる事が多く、代替プログラムの開発が必要となる。

ミニイベントを定期的に行うことで利用者の支持が得られるようになった。今後も続けていきたい。今後、少し規模を大きくしたイベントの実施も視野に入れ、多くの利用者に満足感を味わっていただける広場を目指したい。

## 2-1-2 海老名ふれあい動物施設（受託 1年契約）

専従職員2名という体制で当年度を迎えたため、業務の見直しを図り、運営を行った結果、園内で行うイベントの回数は減ったが、利用者数に関しては微減にとどまっている。

ポニー教室については小学生対象の夏・冬休みと3歳以上の未就学児とその親対象の春休み、春に入りきれなかった親子を対象とした6月（2年目）も好評をいただいた。それぞれ心待ちにしてくださっている常連の方が各回の3分の2を占めている状況である。

派遣出張の要請は、少しずつながら増加している。今まで利用していただいた所では毎年同じイベントの中のプログラムとして次年度も予定していただいているようである。

今後はもっと運動公園に足を運んでもらえるように、イベントだけではなく日々の利用しやすい雰囲気を提供できるように努めていきたい。



### 3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及

#### 3-1 「馬のいる領域」研究集会

今年度より主催が「ゆるやかネットワーク」となり、当団体を含め特定非営利活動法人日本治療的乗馬、一般財団法人日本障害者乗馬協会、特定非営利活動法人 RDA Japan の4団体が共催して、2月15日・16日に第1回「馬のいる領域」研究集会を開催した。



今回は4団体の中から実行委員会を選出し、企画・運営にあたった。他団体との連携や情報交換の一助となるので積極的に参加して行きたい。

#### 3-2 馬から学ぶオリンピック・パラリンピック事業

東三鷹学園三鷹市立第一小学校において、3年生を対象に、年4回「乗馬による体力向上プログラムの構築事業」を実施。令和2年にオリンピック・パラリンピックが東京で開催され、馬を使う競技があることから（近代5種・馬場馬術・障害飛越・総合馬術）、子供達に馬の魅力や関わりの難しさ、パラリンピック選手の方々のすごさなどを体感してもらい、競技への興味が広がるように授業を進めた。学校側は総合学習としての意味を求めており、両面からアプローチをした。



本年度は担当教諭からの要望で、成果物（新聞、図鑑など）を残したいという事から、座学では、蹄や鞍の実物を見せるなど、子供達の興味を誘うよう趣向を凝らした。その甲斐あってか、子供達からの質問が大変多かった。

騎乗に関しては、今回の生徒数が前年に比べて少なかったため、より長くポニーに乗る事が出来た。よって技術の上達も早く、怖がる子供が少なかったのが大変印象深い年になった。

### 4. 川べり環境の整備及び活用の推進

#### 4-1 カヤック教室・水辺でのプログラム

カヤック講習を平日の午前中に実施。安全確保や操船・指導法などの実践講習を行った。カヤック教室は3回実施したが、活動場所の確保と河川敷整備のため、ゴミ拾い、草刈を通年実施した。



ポニー教室中に気温が危険指数を超えた場合に川遊びを行った。また、河内町、茨城県LD等発達障害親の会、ポニースクールのパートナーアニマル参加者など、午前中がポニー乗馬、午後が川遊びなど一日を通して牧場を利用する場合にはカヤックや水遊びを行った。



#### 4-2 河川騎馬パトロール

6月9日に茨城県稲敷郡にて河川騎馬パトロール隊を実施。9月22日の京都府南山城村、11月24日の稲敷郡での河川騎馬パトロールはいずれも雨で中止となった。京都府南山城村の企画については平成30年3月に実施した相楽東部（南山城村・笠置町・和束町）での新たな水辺のアクティビティの可能性調査・検証をさらに一步進める予定だっただけに、中止が惜しまれる。

### 5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進

#### 5-1 モンゴル大草原乗馬交流

再開して2年目となる今回は参加者も増え、14名で催行。前年同様、シリンボラグキャンプ地、モンゴル文化教育大学、旅行社（HAS）の連携で実施。11歳から70歳まで幅広い年齢層の方の参加があった。また、今回は遊牧民宅でのホームステイを中心とした長期型のコースも用意した。

〈コース1：モンゴル大草原騎馬トレッキングツアー〉

- 日程：7月28日～8月4日
- 対象：小学5年生以上
- 参加人数：14名（うち3名がコース②に参加）  
引率1名
- 内容：乗馬トレッキング、長距離外乗、遊牧民  
ゲル訪問、お別れ会 等



〈コース2：牧民生活体験〉

- 日程：7月28日～8月28日
- 対象：小学5年生～大学生
- 参加人数：3名 帰国の際に外部協力者1名
- 内容：遊牧民体験（ホームステイ）

#### 5-2 日独青少年相互交流計画 2019

東京（ハーモニセンター）からは過去最多の12名が参加した。ドイツのサッカークラブで働く日本人に自身の半生について、海外で働くことについてのお話をいただいたり、紛争で傷ついた子供達を保護するデュッセルドルフのドイツ国際平和村に訪問するなど、教育や将来の夢に繋がる時間を追加したり、渡独前日にはドイツ大使館の方にお話をいただくなど、ドイツ側との繋がりを強化できた回となった。

- 日程：8月12日～27日
- 参加者数：16名（参加者15名、引率1名）
- 内容：地域の散策、七夕まつり、学校見学、ドイツ国際平和村訪問、サッカー観戦、サッカークラブ職員による講演聴講、国際ユースキャンプ参加他
- 今後の展望：国際平和村の訪問やサッカークラブの訪問等は変わらず実施し、高校生や大学生にとってより多くの学びがある機会を提供できるように、ドイツ側との連携の強化やプログラムの発展的継続をすると共により広く参加を呼びかけ、選考をした上で派遣するなど、参加者のモチベーションや目的もはっきりとさせていき、より事業の意義を深めていきたい。

## 6. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信

### 6-1 機関紙「THE HARMONY CENTER」の発行

月刊紙として発行した。(2,500部印刷)

サイズはタブロイド判とし、基本は4面(長期休暇前の6月号と12月号は6面)印刷。4面刷りの場合は1面と4面がカラー印刷。6面刷りの場合は1・3・6面をカラー印刷とした。キャンプに関心がある保護者層(20代~40代)が手に取りやすく、参加する子供達が楽しめる内容にするため、写真を多く取り入れ、内容も毎月楽しめる様にシリーズものを増やした。

キャンプ・移動乗馬等での関係機関への配布を強化した。

### 6-2 キャンプ募集チラシの発行

動物広場での頒布やキャンプ参加者へのお知らせを強化するため、代々木で内製し各広場で配布した。結果として広場からのキャンプ参加者が増加し、少しずつ根付いてきたように感じる。

### 6-3 WEB広報

より参加者が見やすく、クレジットでの支払いが実施出来るよう、HPを変更してから2年経ち、それに伴い各広場のブログを統合した。

またSNSは今までのFacebookだけでなくInstagramも活用。キャンプ中には様子を定期的にアップし、より多くの方にハーモニセンターのSNSを知っていただける、見ていただける機会を作った。

## 7. その他

### 7-1 規程変更

法改正、事業運営の実態に合わせて就業規則、賃金規程を変更した。また、第三者委員会報告を受け、定款変更、評議員運営規則の改正について理事会での審議を継続中。

### 7-2 馬の管理

財団所有馬77頭、行政(板橋区・海老名市)より預託馬6頭、引退競走馬支援団体より預託馬1頭、全84頭を管理。高齢馬の入れ替えを進めつつ、新馬4頭を購入。JRAより1頭を譲り受け。5頭を有償譲渡。2頭の高齢馬を無償譲渡。4頭が病死。

ポニーステイ事業として、伊那小学校(長野県、公立)に2019.12~無償貸与。

### 7-3 人材育成

#### ① ポニーキャンプカウンセラー募集

カウンセラーの募集は前年度同様、ホームページを中心に行った。また、小規模説明会をカウンセラーの日帰り研修と同日程で5、6月の間に5回実施し、登録後の企画参加増につなげた。加えて麻布大学(46名登録)、日本大学(16名登録)、国際動物専門学校(29名登録)、流通経済大学(12名登録)、中央動物専門学校(4名登録)での訪問説明会を実施した。

インターネット募集情報掲載: アクティボ

大学・専門学校募集ポスター掲示 57校掲示

#### ② 登録カウンセラー数(令和2年3月時点)

継続登録者数	新登録者数	合計
80	175	255

○ 総評

HP リニューアルに伴い、ボランティア募集のページを見やすくしたことから、HP やボランティアサイトからの申込数が増えた。前年に引き続き大学・専門学校の授業の時間をもらっての説明会での登録が約半数と多かった。また、すでに登録しているボランティアからの紹介の登録も増えた。今後関係ある学校等での説明会を多く実施するとともに、既存のボランティアに知り合いの紹介など依頼して登録人数を増やしていく。

○ 課題、将来展望

大学生の学校に拘束される時間が増えており、祝日祭日に参加できる学生が減ってきている。そのため、以前にも増して、カウンセラーの人数を集めていくとともに、キャンプの質を保つために学生のライフスタイルに合わせ、宿泊のポニー研修以外にも、スキルアップ研修を増やしていく必要がある。

③ 職員研修会

- 5/1 マナー講習（引き馬、馬装といった事業所業務の基礎講習を含む）1・2年目職員
- 6/10 コミュニケーション研修&身体メンテナンス 30代
- 7/9 障害児について & 「目的と手段」& エゴグラムを使用した自己分析 4年目以下
- 7~8月 夏キャンプ参加 2年目以下
- 10/15 女性会議
- 11/18 ふれあい研修 & リスクマネジメント 5年目以下
- 2/11~16 乗馬研修
- 2/25 マネジメント研修「目的と手段」 30代以上

## 7-4 第三者委員会

平成28年度に発生した使途不明金問題に関し、12月に第三者委員会を設置して再調査を行い、1月に提出された報告書を以て、内閣府公益認定当委員会、動物広場事業の発注元である各自治体並びに再委託の委託元である相鉄企業、(公財)横浜市緑の協会に報告を行った。

また、委員会報告で指摘された役員等の選任方法の見直し(規程・システムの見直し)等、再発防止策の実行に着手した。

## 7-5 会議等

① 理事会・評議員会

- 役員選定諮問委員会 (5/19)
- 第1回理事会 (5/28)
  - 第1号議案 寄附金規程の件
  - 第2号議案 平成30年度事業報告案・決算案の件
  - 第3号議案 河内町町有財産使用賃貸借契約書の件
  - 第4号議案 役員改選の件
- 定時評議員会 (6/23・7/7)
  - 第1号議案 平成30年度貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認の件
  - 第2号議案 役員改選の件
- 第2回理事会 (7/19)
  - 第1号議案 代表理事及び業務執行理事選定の件
  - 第2号議案 平成28年度使途不明金に関する第三者委員会設置の件
- 第3回理事会 (9/17)
  - 第1号議案 第三者委員会の件
  - 第2号議案 河内町旧みずほ小学校活用事業の件
  - 第3号議案 理事長室設置並びに斉藤隆氏との顧問契約の件
  - 第4号議案 定款変更(評議員の選任)の件
  - 第5号議案 臨時評議員会開催の件

- 第6号議案（追加） 賃金規程変更の件
- 第4回理事会（1/18）
  - 第1号議案 現役員任期の件
  - 第2号議案 評議員選定委員会運営規程の件
  - 第3号議案（追加） 正味財産増減計算書内訳書の件
- 臨時評議員会（1/26）
  - 第1号議案 役員体制の件
  - 第2号議案 評議員選定委員会設置の件
- 第5回理事会（3/14）
  - 第1号議案 令和2年度事業計画案・収支予算案の件
  - 第2号議案 法改正に伴う規程改正の件
  - 第3号議案 内閣府からの報告依頼の件（使途不明金関連）
  - 第4号議案 評議員選定委員会運営規程の件（継続）
  - 第5号議案 職員への期末賞与支給の件
  - 第6号議案 修繕積立金等の増額について
- ② 委員会
  - 人事・採用・研修委員会  
12/19 前年度採用振り返り
- ③ その他
  - 新年互礼会（1/20）
  - 入職式（4/1）
  - 公益認定当委員会立入検査（1/23）
  - 運営委員会（4/22 5/28 6/3 9/9 10/7 11/5 12/2 1/21  
2/6 3/20）
  - 場長会議（4/22、6/3、9/9 10/7 12/2 1/21 2/17 3/16）
  - 女性会議（10/15）
  - これからのハーモニィ P（12/9 1/7 2/18）

## 【会員】

31年3月31日  
 賛助会員 A 490 世帯  
 賛助会員 B 71 名  
 団体会員 0 団体

令和二年1月30日時点  
 賛助会員 A 214 世帯  
 賛助会員 B 70 名  
 団体会員 0 団体